

# 将来世代の視点取得の 成功度合いを測定するための 質問紙尺度の提案

高知工科大学 経済・マネジメント学群  
准教授 中川善典

# はじめに

1. 将来世代の利益のために自分の利益を控えることに**喜びを感じる能力**を、Saijo (2018)は futurability と名づけた。
2. 現代人が**仮想的に将来世代の人間になりきるよう想像させる**ことは、Fururability を活性化させるための有力な手法。
3. しかし、その**成否を評価する手法**が存在していなかったのが現状。
  - 「将来人になりきる」という比喩で表現される行為に成功した程度を、如何にして測定できるか？

# 測定手法がないことの弊害

1. 一般市民やステークホルダーを対象にワークショップを実施し、彼らに未来人になってもらう手法は無数にある。測定手法がなければ、その中から**より効率的に参加者が未来人になる手法を探索することができない**。
2. 測定手法がなければ、WS参加者が未来人になりきることによって、**どのような効果が生じるか**について、解明することができない。
  - ✓ 創造的なアイデアの創出
  - ✓ 政策への選好の変化
3. 全国各地で行われているフューチャーデザイン実践を**横断的に比較・評価**することができない。

# 尺度開発の手順

1. 岩手県矢巾町におけるワークショップ(2015, 2016)に参加した町民のうち、協力を申し出てくれた2名の参加者に対して、各2時間弱のインタビューを実施。
2. 彼女らにワークショップに参加した体験を詳細に語ってもらう。  
✓特に「未来人の立場に立つ」というガイダンスをどのように自分なりに解釈しながら、ワークショップに参加したかに注目する。
3. インタビューデータを踏まえてアンケート質問項目を作成する。
4. 別の実践／実験の場で参加者に対してそのアンケートを実施し、質問項目を取捨選択する。

# 矢巾町でのインタビュー結果を紙芝居にまとめました。



大村さんが発言しました。「ぼくたちは未来人なんだからさあ、ここ2~3年で解決できることは、将来の時代にはもう解決済みになっていると思っていんじゃないかな。」この何気ない発言を聞いた美穂さんは、はっとしました。

「グループ討議の際、『将来人の視点に立つとは、こういうことだったのかもしれない!』という気づきの瞬間があった。」

今の私が子育てで困っている問題は、40年後の世界では、きっと解決済みになっているに違いない。日々の子育てのことは一旦忘れてみよう。この先数年で解決できそうな問題のことは、一旦忘れよう。

「将来人の視点に立っている間、日ごろの小さな不満や悩みを忘れて議論に没頭できた。」

このように、自分が80歳になったことを想像しながら40年後の矢巾町を描いているうち、美穂さんはいつの間にか、今のままの年齢で将来の世界に生きているような感覚に陥っていきました。

「将来人として2048年の姿を想像するうち、自分が本当にその中で生活しているような感覚に陥った。」

グループの他のメンバーも、自分と同じような感覚を共有していると、美穂さんは気づきました。

「グループ討議の際、将来人の視点を獲得できているメンバーと、そうでないメンバーとを、見分けることができた。」

そのとき美穂さんが「まだそんな課題について、ごちゃごちゃ言ってるんだね(笑)。こっちの世界では、そんな課題はとっくに解決しているんだよ(笑)。」と思ったのです。

「将来人の視点に立っている間、現代人にとって切実な問題でも、将来人にとってはそうでない場合もあると感じた。」

自分たちも現代人のままだったら、銀河鉄道をモチーフにした交通網ビジョンなど、夢物語に過ぎないと思っていたはずです。

「自分たちが将来人の視点から描いた2048年の姿は、2018年の視点に立っている人たちからは正当に評価されないだろう。」

未来人としての美穂さんが感じたのは、現代人としての美穂さんに対する優越感といってもいいのかもしれませんが。

「将来人の視点に立つことを経験した自分は今、それまでの自分に対して優越感を感じる。」

- 1) 将来人の視点に立って想像する2048年の姿は、2018年に生きる人間が想像する2048年の姿と、根本的に異なると思う。
- 2) 将来人の視点に立つことで、2018年に生きる自分が「他人」だと感じられた。
- 3) 将来人の視点に立つことで、2018年が「過去の時代」だと感じられた。
- 4) グループ討議の際、「将来人の視点に立つとは、こういうことだったのかもしれない！」という気づきの瞬間があった。
- 5) 将来人として2048年の姿を想像するうち、自分が本当にその中で生活しているような感覚に陥った。
- 6) 将来人の視点に立っている間、現代人にとって切実な問題でも、将来人にとってはそうでない場合もあると感じた。
- 7) 将来人の視点に立っている間、日ごろの小さな不満や悩みを忘れて議論に没頭できた。
- 8) 将来人の視点に立つことを経験した自分は今、それまでの自分に対して優越感を感じる。
- 9) 2018年に生きる人が、そのような自分を一旦忘れて2048年の視点を獲得することは、高度な知的作業だと実感した。
- 10) 将来人の視点に立つことを経験した自分は、将来人も現在に生きる人と同じくらい大切にされるべきだと、今まで以上に強く思う。
- 11) 将来人の視点に立つことを経験して2018年に戻った自分は今、2048年の人たちの事を、今まで以上にいとおしく感じる。
- 12) 将来人の視点に立つことを経験して2018年に戻った自分は今、自分が想像した2048年の姿の実現のため努力したいと思う。
- 13) 将来人の視点に立つことを経験した自分は、2018年の人たちが将来人に感謝されることをすべきだと、今まで以上に強く思う。

各5点満点 × 13項目 = 65点満点

(1点)	全く当て	当てはま	どちらとも	当て	とても当て	(5点)
	はまらない	らない	言えない	はまる	はまる	

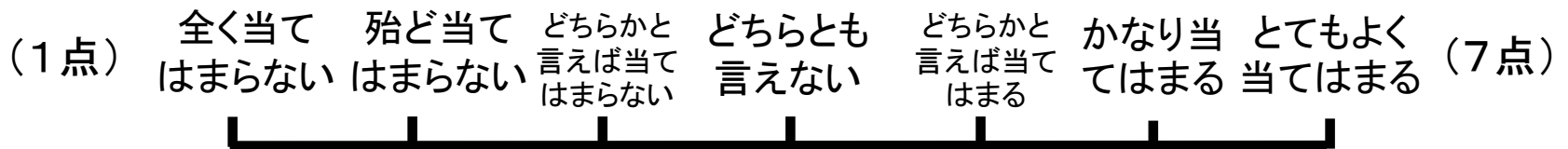




# 相関すると思われる既存尺度(1)

## Social Generativity Scale(将来への思いやり尺度)

1. 私は将来世代にとって、より良い世の中が確実に実現できるよう、活動をしている。
2. 私は、自分が住んでいる地域を改善する責任を負っている。
3. 私は、次の世代を育てるために、自分の日々の生活の快適さの一部を犠牲にしている。
4. 私は、将来世代が幸せでいられることを確かなものにする責任を負っていると思う。
5. 私は、自分が死んだ後にも世の中に残るような事柄を行うという決意を持っている。
6. 私は、他の人々が自ら進歩することを、支援している。



各7点満点 × 6個 = 42点満点

Morseli and Passini (2015)

# 相関すると思われる既存尺度(2)

## Place Attachment Scale(土地への愛着尺度)

1. 私は宇治市の地域コミュニティにつながっていると感じる。
2. 私は宇治市に愛着を感じている。
3. 私は宇治市の地域コミュニティから遠く離れたところにいると、寂しく思う。
4. 私は宇治市を誇りに思う。
5. 宇治市は私にとって特別なものだ。
6. 宇治市が今あるようなイメージを持った市であることに、尊敬の念を抱いている。
7. 宇治市に住んでいる人たちには、自分と似たところがある。
8. この地域コミュニティに住んでいることは、私がどんな人間であるかを規定するひとつの要素になっている。

各5点満点 × 8個 = 40点満点

Scannell and Gifford (2010)

# 京都府宇治市における実践

かんがえよう これからの 地域の未来。～未来の視点から考える宇治市の地域コミュニティ～

<会場> 宇治市役所 8階 大会議室  
/うじ安心館 3階 ホール  
<対象> 市内在住・在勤・在学  
30名



- 1回目) 平成30年10月28日 (日)
- 2回目) 平成30年11月23日 (金・祝)
- 3回目) 平成30年12月15日 (土)
- 4回目) 平成31年1月26日 (土)

皆さんは、前回(12月15日)に引き続き、**今から30年後、2048年の世界にタイムスリップ**し、今と同じ地域で生活し続けることになりました。その中で、2018年以降の宇治市の人たちが、**地域コミュニティのあり方に関して、最善を尽くして頑張ってきてくれたことに感謝**しています。15:40までの時間を使い、次の三点を行ってください。

A 12月15日にあなたのグループが描いた2048年の地域コミュニティの姿について、模造紙画像と全体発表の書き起しを用いて復習してください。

B 上のAで想像した宇治市の中では、同じ地域に住む人たちが、どのように関わって暮らしているかを、描いてください。地域の中の①誰が(組織、担い手)、②どこで(拠点、施設、空間)、③何をしながら、関わっているかに着目してください。

C 2018年の宇治市がBの姿にたどり着いた過程を、歴史物語風に描いてください。いつ、どんな課題を乗り越えてきたかということに着目してください。

なお、重要なお願いがあります。皆さんは2048年に生きているので、2018年のことを話すときには、**過去形で話す必要**があります。

(正)宇治市の2018年の人口は18万人だったので…

(誤)宇治市の2018年の人口は18万人なので…

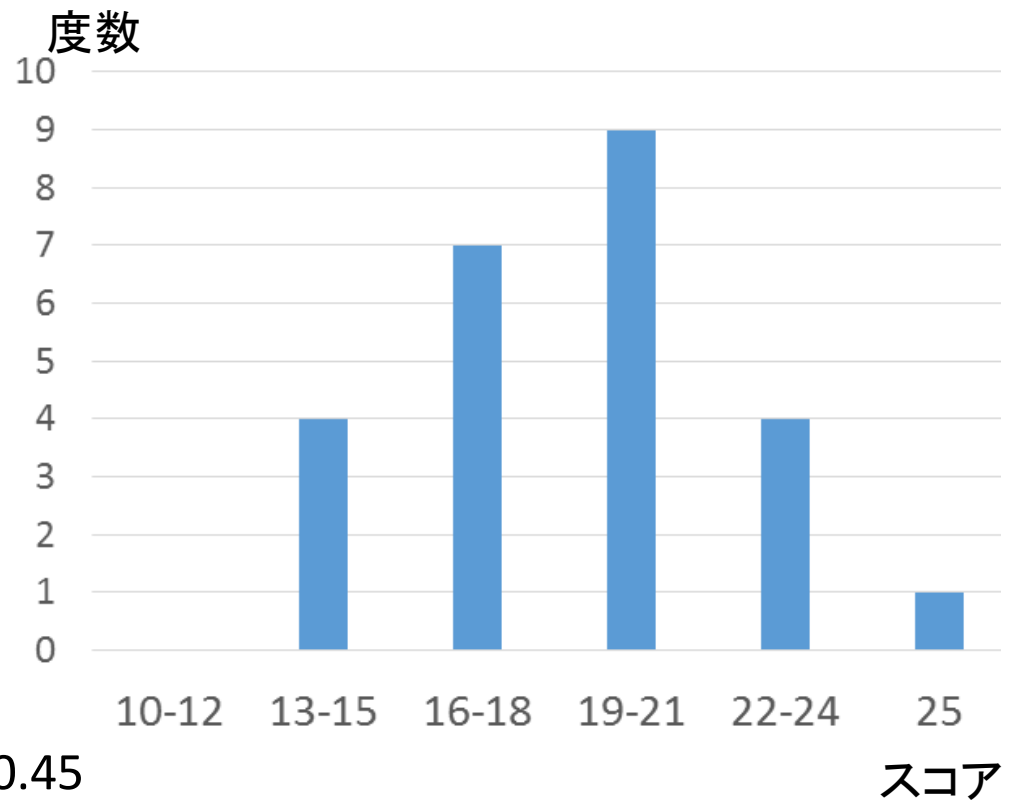
# 宇治市での結果

1. 現代人の視点から40年後を描いた第1回目では、「町内会・自治会への加入率の低下」など、2018年現在で深刻とされている問題が解決された世界を描いた班が多かった。
2. 未来人の視点から未来の世界を描いた第3, 4回では、「多様な個性を持ち独立した地域で構成される宇治市」「地域の子供から高齢者までの拠点としての小学校」などのビジョンが描かれた。
3. ただし「自分たちは現代人の回るときから未来人の回までずっと同じ感じでやってきた」というコメントあり。また、未来人として描いたビジョンの核となるアイデアが、現代人の回に既に現れていたケースもあり。
4. 1/26の最終回、参加者の1名が他の参加者たちに対し、自主的な勉強会の継続を呼びかけたところ、約30人中、約20人が手を挙げた。彼らは、今後、どう活動を広げてゆくか？その広がりは今回フューチャーデザインを採用したからこそなのか？

# 宇治市での結果

( $n = 25$ )

- ・5つの質問の相関が互いに高い。
- ・これらは25点満点の尺度を構成。
- ・ $\alpha = 0.69$
- ・年齢との相関は0.11
- ・性別との相関はゼロ
- ・土地への愛着との相関は0.46
- ・将来への思いやり尺度との相関は0.45



- 1) 将来人の視点に立って想像する2048年の姿は、2018年に生きる人間が想像する2048年の姿と、根本的に異なると思う。
- 3) 将来人の視点に立つことで、2018年が「過去の時代」だと感じられた。
- 5) 将来人として2048年の姿を想像するうち、自分が本当にその中で生活しているような感覚に陥った。
- 6) 将来人の視点に立っている間、現代人にとって切実な問題でも、将来人にとってはそうでない場合もあると感じた。
- 7) 将来人の視点に立っている間、日ごろの小さな不満や悩みを忘れて議論に没頭できた。

# 今後の課題

1. 将来視点獲得尺度の精緻化
  - ✓ 大規模な討議実験(N=190)により質問項目を厳選し、因子構造も特定し、尺度を確定。(2月)
2. 将来視点獲得のお陰でできるようになった事柄の測定
  - ✓ グループとしての成果を主観的・客観的に測定する
  - ✓ メンバーのグループへの寄与を測定する
  - ✓ 政策の選好の変化を測定する。(2月に財政分野で実験。)
3. フューチャーデザインが持つSpillover効果の観測
  - ✓ フューチャーデザインワークショップに参加した市民たちが、その後どのように関係を維持・発展させるか観察。(宇治市)
  - ✓ フューチャーデザインワークショップに参加した市民が毎日の生活に戻り、行動をどう変えるか。周囲の人にどのような影響を与えるか。(カトマンスで実証実験。)
  - ✓ 矢巾町で総合計画策定に関与した各種ステークホルダーが、その後、どのように行動を変えるか？
  - ✓ フューチャー・デザインを採用することを決めた自治体職員のインタビュー@宇治市、長岡京市 (⇒彼らを主人公とした紙芝居の作成)